

# 經濟論叢

第161卷 第5・6号

- 
- |   |             |     |
|---|-------------|-----|
| 再販制と返品制の同等性……………                            | 成湯 生本 達祐 彦司 | 1   |
| 第二次世界大戦期の国際決済銀行(3)……………                     | 西牟田 祐二      | 19  |
| アメリカ対外援助政策の再編と途上国開発……………                    | 中西 泰造       | 47  |
| 台湾の中心衛星工場制度……………                            | 高 杏華        | 69  |
| 非死亡リスクを組み入れた費用効果分析(1)……………                  | 岸本 充生       | 92  |
| HDTV(高品位テレビ)の国際標準をめぐる<br>規格競争と米国の標準化政策…………… | 田村 考司       | 109 |
| 「協調的生産主義」の職場労使関係における<br>個人主義と集団主義……………      | 上田 眞士       | 126 |
- 

平成10年5・6月

京 都 大 学 経 済 学 会

## 第二次世界大戦期の国際決済銀行（3）

——大戦中 BIS の基本業務——

西 牟 田 祐 二

国際決済銀行（BIS）の銀行業務の相手方はおもに諸中央銀行と諸国際機関であり、すべての取引のほぼ90%がそれらとの間で行われた。残りの業務は民間銀行に関するものであった。こうしたすべての銀行業務に応じる態勢ができている銀行間のつながりのおかげで BIS は、ライヒスバンクに対してもほかの諸中央銀行に対してもまた民間の国際銀行業務の領域でも、大戦中においても、本文中に述べるいくつかの例外を除き、完全なサービスを提供することができたのである。

スイスにおいて BIS はベルンに本店を置くスイスの中央銀行たるスイス国立銀行 Schweizerische Nationalbank における彼らの口座と並んでスイス・ユニオン銀行（Schweizerische Bankverein, Union Bank of Switzerland）とバーゼル商業銀行にも口座 Sichtdepositen を持っていた。それに加えてスイス銀行（Schweizerische Bank Gesellschaft, Swiss Banking Corporation）およびさらに小さな銀行であるジュネーブのミラバウト&フィリス銀行 Bank Mira-  
baud & Fils やバーゼルのエクスリン兄弟銀行 Bankhaus Gebrueder Oechslin にも口座を持っていた<sup>1)</sup>。

1) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Statement for Mr. McKittrick, January 1940-June 1946. この資料は、BIS 銀行部門が総裁マッキトリックに対して BIS のあらゆる銀行業務を毎月具体的に報告している最も詳細な文書である。なお筆者は、1998年7月20日-8月28日の間ハーバード大学ビジネス大学院付属図書館ベイカー・ライブラリー Baker Library, Historical Collection Room において現在同室に所蔵されているトーマス・H・マッキトリック文書 Thomas H. McKittrick Papers (McKittrick Collection ないし MC と略記) を直接検討する機会を得た。同室主任 Archivist の Albert Bartovics 氏に記して謝意を表したい。なお本シリーズの (1), (2) において MC については Gian Trepp 氏の著書に依拠していた。

ニューヨークでは BIS はニューヨーク連邦準備銀行における彼らの口座のほかにも多数のアメリカ民間大銀行にもまた口座 (Sichtdepositen) を持っていた。そのなかにはファースト・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨーク、マニュファクチュアーズ・トラスト、J. P. モルガン & Co. および J. ヘンリー・シュローダー銀行があり、また更に加えてウォール・ストリートの証券ブローカーであるブラウン・ブラザーズ・ハリマン Brown, Bros., Harrimann に証券口座を持っていた<sup>2)</sup>。

この中で J. ヘンリー・シュローダー銀行 J. Henry Schroder Banking Corporation はこの時期のとりわけ米独経済関係を考える上で特別の重要性を持っている<sup>3)</sup>。すでに見たように同行はドイツ・ハンブルク出身の個人銀行シュローダー銀行商会 Schröder & Co. のアングロ・サクソン分家でロンドン及びニューヨークで活動した。この時期 BIS 監査役会へ派遣されたドイツの民間銀行代表者クルト・フライヘル・フォン・シュローダー<sup>4)</sup>とロンドンの J. ヘンリー・シュローダー銀行商会の頭取ブルーノ・フォン・シュローダーは従兄弟同士の関係にある。またアメリカの J. ヘンリー・シュローダー銀行の顧問法律事務所は、ニューヨーク最大手の法律事務所であるサリヴァン&クロムウェル Sullivan & Cromwell であって、同法律事務所は、先にもふれたように<sup>5)</sup>、第一次世界大戦後の「ドーズ案」以降のアメリカからドイツへと大量投資するアメリカ諸企業の法律顧問の役割を広範に担っていた。また逆にドイツ諸企業のアメリカ子会社に対しても同法律事務所は広範な法律顧問となり、そうした諸企業に取締役として入っていた。前者については、スタンダード・オイル・オブ・ニュージャージー社、インターナショナル・ニッケル社

ゝが、本稿(3)以降においては直接同文書の検討に基づくことができた。

2) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Statement for McKittrick, January 1940 June 1946.

3) Richard Roberts, *Schroders — Merchants & Bankers —*, 1992.

4) 拙稿「第二次世界大戦期の国際決済銀行(1)」『経済論叢』第161巻第2号, 表1及び17ページ参照。

5) 拙稿「ナチ経済とアメリカ大企業——GM社の場合——」『経済論叢』第157巻第1号, 注45参照。

(INCO) などがあり、またサリヴァン&クロムウェルがドイツ・ビジネスを発展させる上で提携したドイツ側の法律事務所アルバート&ヴェストリック Albert & Westrick のパートナー、ハインリッヒ・F・アルバートはドイツ・フォード社の会長となっている<sup>6)</sup>。後者については、ハンブルク・アメリカ汽船航路会社 (Hapag) や、ロバート・ボッシュ社のアメリカ子会社アメリカン・ボッシュ・カンパニー (ABC)、IG ファルベン社のアメリカ子会社ジェネラル・アニリン&フィルム General Anilin & Film Corporation などがある。このサリヴァン&クロムウェルの上級パートナーであり、事実上同法律事務所を主宰していたのが政界入りする前の (のちのアメリカ合衆国國務長官) ジョン・フォスター・ダレス John Foster Dulles であった。J. F. ダレスは、すでに1919年のヴェルサイユ講和会議においてドイツ賠償問題専門委員会のアメリカ側専門委員の一人であり、1920年にはヤルマール・シャハトとも面識を得ている<sup>7)</sup>。1924年4月に実現した「ドーズ案」は実際 J. F. ダレスのアイデアに発していた<sup>8)</sup>。こうした過程を通じて J. F. ダレスは「ドーズ案」以降のアメリカ諸企業の対ドイツ投資の広範な利害を代表する存在になるに至った。それは1930年代に入りドイツでナチ政権が成立した後も基本的に変わらなかった<sup>9)</sup>。それをよく示すものとして1939年になって行なわれた J. F. ダレスとジェイムズ・ウォーバーク James Warburg との論争、および同じく E. セリグマン E. Seligman との論争がある。最初の論争 (1939年3月) で J. F. ダレスは、「ドイツや日本がアメリカに戦争を仕掛けるなどということはヒステ

6) 拙稿「ナチ経済とアメリカ大企業——フォード社の場合——」『欧米資本主義の史的展開』思文閣、1996年、表3参照。

7) N. Lisagor and F. Lipsius, *A Law unto Itself—the Untold Story of the Law Firm of Sullivan & Cromwell*, 1988, p. 83.

8) *Ibid.*

9) *Ibid.* 1935年に至り同法律事務所のユダヤ系パートナーと J. F. ダレスの間で対立が起きた。弟のアレンの仲介で話し合いがもたれ、結局同法律事務所自身のベルリン事務所は解消された。しかし諸企業との法律顧問関係は解消されていない。サリヴァン&クロムウェルのドイツ・ビジネスは続行された。この点で Norton, M. B. and others, *A People and A Nation: A History of the United States*, 1994. 上杉忍他訳「アメリカの歴史⑤大恐慌から超大国へ」三省堂、1996年、126ページ14行目における叙述は誤りである。

リーにとりつかれた者だけが考え得ることだ。」と主張しており<sup>10)</sup>、二番目の論争(1939年10月)では「この戦争——9月に始まった第二次世界大戦(筆者注)——における連合国の立場は、どんな点においてもモラル上ドイツの立場に優越するということはない。いやむしろドイツの立場の方が連合国の立場より道徳的に上である」と述べている<sup>11)</sup>。また後に見るように1942年にはJ. F. ダレスは元の BIS 総裁で現在はファースト・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨーク頭取となったレオン・フレーザーの依頼を受け、アメリカ合衆国司法省に対して BIS の利益を弁護する役割を引き受けている。

BIS の業務においては、BIS の固有の業務と、諸中央銀行やその他の国際諸機関たとえば国際赤十字委員会 (IKRK, ICRC) や国際郵便連盟 (IPU) のための委託業務の間に大きな区別がある。自分自身の固有の計算にもとづく BIS の業務は BIS の株式会社としての私経済概念に基づいている。それは、その経営コスト及び株式資本に対する6%の配当に役立たねばならない。BIS 固有業務の金融的な基礎は基本的に BIS のドイツに対する投資であった。このほぼ2億4,000万ライヒスマルクに達する額はすでに見たように「ヤング案」による賠償支払い義務に由来し、BIS は設立諸中央銀行からその経営の資金運用を委託されていたのである。この資金は、ドイツ国債、ドイツ金割引銀行、およびライヒスパーン、ライヒスポストの社債に投資されていたのだ。そのほかに BIS はライヒスマルク・ポートフォリオを諸民間証券にも運用していたのであった。1940年5月31日付けでほぼ2,200万 RM の価値を持つ282の証券が BIS のポートフォリオにあった。民間の最大の借り手は、ドレスデン銀行で630万 RM、またその次はコメルツ銀行とドイツ銀行パーゼル支店がそれぞれ430万 RM および210万 RM であった<sup>12)</sup>。これら BIS のドイツ投資からの利子収入はライヒスバンクから毎月の支払いを通じて交換性のある通貨スイ

10) Ron Chernow, *The Warburg*, 1993, p. 491.

11) Memorandum to Mr. John Foster Dulles from E. Seligman, October 25, 1939, in N. Lisagor, *op. cit.*, p. 339.

12) McKittrick Collection, Bankers acceptances portfolio of BIS in Germany vom 31. 5. 1940.

スフランないしドル(のちには金)で支払われており、年々900万から1,000万スイスフランに上り BIS の経常的な純収入の約85%をなしていた。BIS の経営コストはドイツからの利子収入よりも常に低かったので BIS に貯まる予備金は継続的に増えていた。

BIS によって彼らの名義でしかし諸中央銀行の計算で管理されている外国為替及び金口座(保管庫)は、戦争勃発に伴う編成替えの後に、主にベルンとニューヨークに集中された。すなわちベルンのスイス国立銀行に1,600万スイスフランであり、ニューヨーク連邦準備銀行に3,100万ドルである<sup>13)</sup>。戦争前には BIS はロンドン、パリ、およびアムステルダムにも資産を持って活動していたが、戦争勃発後その業務を実質的に当時の二つの中立国のスイスおよびアメリカ合衆国に集約した。BIS 銀行業務のこの継続の基礎はハーグ条約であった。これはこの銀行をスイスの司法権外にある国際機関として設立したのである。条約の第10条は BIS 資産を戦時においてもあらゆる差別的扱いや没収から保護し、金の輸出人を BIS にどんな時でも保証するというものであった。

### I ライヒスバンクにとってのニューヨークにおけるドル窓口

この時期の BIS の機能をドイツ・ライヒスバンクの視角から見てみるならば次のようになる。ニューヨークにおいてライヒスバンクは BIS に1930年以來ドル口座を保持していた。1939年夏にいたるまではこの口座は事実上ほとんど動きを示さなかった。しかしその後とりわけ第二次世界大戦勃発以降からライヒスバンクは支払い・受け取りの動きを開始した。毎月の総額は100万ドル単位になった。1940年1月にはこのライヒスバンク口座(ニューヨークにおける BIS の最大の顧客であった)は550万ドルの預金を持っていた<sup>14)</sup>。BIS の法

13) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Statement for Mr. McKittrick, January 1940.

14) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Statement for Mr. McKittrick, January 1940.

律顧問であるフェリックス・ヴァイザーは BIS のニューヨーク連銀におけるライヒスバンク委託口座での取引の流れを次のように描いている。「基本的には次のようになっている。BIS は支払いの時にはニューヨーク連銀に、X に一定の額をライヒスバンクの委託で支払うようにと指示を出す。受け取りの時は支払い者の Y がニューヨーク連銀に、ライヒスバンクのための BIS 口座にある支払いをしたいと知らせる。時によってはライヒスバンクは BIS に名前を示さない支払いを求めることもある。」<sup>15)</sup>

ライヒスバンクと並んで多数のヨーロッパの諸小国の中央銀行がニューヨーク連銀に委託口座（保管庫）を保持していた。その額は1940年1月1日付けでほぼ3,100万ドルにのぼった。その場合もちろん活発な支払い活動を行なうドル口座が重要なのではなく、受け取り用の物理的な金保管庫が重要なのである<sup>16)</sup>。

アメリカ人の新総裁トーマス・H・マッキトリックの就任以来、BIS はニューヨークにおけるライヒスバンクのための顧客サービスを一層改善することができた。マッキトリックがセントラルバーン・シュトラッセにある総裁室に入って数日後、かれはニューヨーク連邦準備銀行総裁ジョージ・ハリソンに対してライヒスバンクに都合がいい方向で介入した。後者は1月のはじめに25,000ドルのライヒスバンク口座を一人の債権者のあり得べき要求のためにブロックした。これに対してマッキトリックはハリソン総裁に電報を打ち、「わたしはライヒスバンクが合衆国司法の下をかいくぐって行動することを助けるつもりはないが、ニューヨークのライヒスバンク資産を守る用意はある。ニューヨーク連銀はニューヨークにおけるライヒスバンクのすべての取引を BIS を通じて処理することに同意したと、ライヒスバンクは私に伝えてきたからである。」とマッキトリックは強調した<sup>17)</sup>。返電の中でハリソン総裁は、

15) McKittrick Collection, Expose' von BIS-Rechtsberater Felix Weiser über die Blockierung von Reichsbankguthaben in New York vom 10. Juli 1940.

16) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Statement for Mr. McKittrick, January 1940.

17) McKittrick Collection, Cable to George Harrison from McKittrick, 31. 1. 1940.

ニューヨークでニューヨーク連銀とライヒスバンクの弁護士トブケン&ファレイの間でそうした会話が行われたことを確認したが、しかしながら正式の取り決めを締結したことには異議を唱えた<sup>18)</sup>。

1940年の1月から6月の間にニューヨークのBISを通じたライヒスバンクのドル支払いの動きは極めて高い頻度の往來を経験した。BISのライヒスバンク口座残高は、年のはじめに550万ドルであったものがバーゼルからのさまざまな送金によって2月にはさらに200万ドル分だけ増え、そして6月の半ばにはほとんどゼロにまで減った<sup>19)</sup>。アメリカ合衆国財務省はデンマークの倒壊の後(1940年4月10日)合衆国内にある被占領ヨーロッパ諸国の預金を段階的にブロックし始める(Executive Order 8389)。またそれにどどまらず同省は枢軸諸国及び中立諸国の在米資産に関する取引に対しても許可制の導入を検討し始めた。それが実際に導入されたところではニューヨークにおけるBISの個々の取引も厳密に申告し、理由付けをしなくてはならなくなった。これに対応してライヒスバンクのニューヨークのBIS口座での支払いの動きはその後数週間でほぼ停止することになる。

1940年の前半期における許可義務制の導入以前にニューヨークのBISにあるライヒスバンク口座に流れ込んだちょうど800万ドルからほぼ100万ドルがワシントンのドイツ大使館とニューヨークおよびサンフランシスコの領事館に行っている<sup>20)</sup>。そのほかの60万ドルのライヒスバンクの支払いがニューヨーク連銀のソヴィエト国立銀行の口座に入っている。同じソヴィエトの口座に同じ日に20万ドルがニューヨークのスイス銀行(SBC)から流れ込んでいる<sup>21)</sup>。この二つの支払いはたぶん次のように解釈して間違いないだろう。ライヒスバンクはBISのほかこのひとつのスイスの民間大銀行も当時の同盟パートナー

18) McKittrick Collection, Cable from George Harrison to McKittrick, 1. 2. 1940.

19) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Statement for Mr. McKittrick, January 1940 to October 1940.

20) National Archives of the United States, RG82, Federal Reserve System, 015, 311 BIS.

21) National Archives of the United States, RG56, General Records, Treasury Department, Records of the Assistant Secretary, Box 16.



のソヴィエト連邦との間の金融的なやり取りの場所として開いていた。1939年8月の独ソ不可侵条約以来ソヴィエトはドイツへ補給物資を供給していた。それにたいしソヴィエトはニューヨークにおいてドルでの支払いを受けていたということである。

SBCのほかにUBS(スイス・ユニオン銀行)もドイツとソヴィエトとの一時的な同盟に機会を見出していた。かれら自身のスイス・ジュラ山脈のヌーシャテル地方のル・ロクル Le Locleにある金選鉱所はドイツ経由で入ってくるソヴィエトの純度の低い金を国際的に通用するよう精練し、それから認められたスイスの検印を押した延べ棒に溶かし固める業務を行っていた<sup>22)</sup>。ソヴィエトの金の儲かる業務はスイス・ユニオン銀行総支配人のアルバート・ヌスバウマー Albert Nussbaumer を1941年のはじめにモスクワへの秘密会議に向かわせた。これについてヌスバウマーはマッキトリックにも知らせている<sup>23)</sup>。

1940年6月/7月期にBISはドル小切手の兌換の際にドイツの民間大銀行ドイツ銀行 Deutsche Bank の便宜を図る介入を行なった。ドイツ銀行は1940年はじめにライヒスバンクから営業を停止したダンチヒ発券銀行が持っていた344のBIS株式の金融上の権利を引き継いだ。この株式への1939・40営業年向けの6%の配当金を支払うためにBISはファースト・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨークで引き出される4,224ドルの小切手を送った<sup>24)</sup>。BIS配当金はこれまでは常に株主の現地通貨で支払われていたが、新しい支払い方式がドイツ銀行には都合がよかったのである。ドイツ銀行にとって1940年の7月にはニューヨークにおけるドルの方がベルリンにおけるライヒスマルクよりも比較にならないほど価値があったのである。BIS配当金のドイツに友好的な支払方法はしかしながらアメリカ合衆国財務省の外国資産管理局の不信感を刺激し、財務省の官僚たちはこの取引に対する許可を当初一時拒否した。その

22) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll, 1. Halbjahr 1940, S. 171, in Trepp.

23) McKittrick Collection, Brief McKittrick an Nussbaumer 3. 3. 1941.

24) Zentrales Staatsarchiv Potsdam, Bestand: Deutsche Bank, Nr. 9741, Blatt 259, in Trepp.

代わりにかれらはレオン・フレーザーに対し BIS についての照会を求めた。彼が現在頭取として率いているファースト・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨークはアメリカ合衆国における BIS の最大株主であるが、この元 BIS 総裁は当然に許可の付与を支持し、いくらかのやり取りの後、ドイツ銀行は1940年8月にやっと彼らの配当小切手を現金化することができた<sup>25)</sup>。

同年9月にマッキトリックはアメリカ財務省の官僚に関わる困難についての自分の怒りをニューヨーク連邦準備銀行ハリソン総裁への手紙の中で爆発させている。「この財務省の官僚たちはそもそも一体何を考えているのか？ われわれここ BIS にいる人間たちはかれらにとって一体何なんだ？ かれらは、われわれのヨーロッパにおける配当小切手に対するこの不快な策略がどれだけの信頼を犠牲にしたのか、ぜんぜん分かっていない。」<sup>26)</sup> BIS 配当小切手のニューヨークでの現金化を巡る困難はマッキトリックに、アメリカにおける BIS のイメージをニューヨークとワシントンへの自らの旅行によって改善するという考えを起こさせた。これについては後述する。

ちょうど800万ドル、すなわち当時の為替レートではほぼ3,500万スイスフラン、ないし今日の価値では概算で4億スイスフラン、がライヒスバンクが1940年前半期にニューヨークの BIS ドル窓口を通じて支払った額である。金額は今日の見方で見れば特別に多いとは見えないかもしれない。しかし実際この支払いの意味は、その絶対額よりも、ドイツの戦争経済がこの時期にアメリカ合衆国との間に支払いのすばやく確実な水路を持っているということ自体にある。実際 BIS が口座を保持している諸銀行のウォール・ストリートにおける広範なネットワークの存在と BIS 銀行部門がライヒスバンクの委託で「名義を示さない支払い」を行なう用意があるということの二つをあわせて考えると、ベルリンからの貨幣のアメリカでの受け取り手の可能性に関する想像には何ら限

25) National Archives of the United States, RG 56, General Records of the Treasury, Records of the Assistant Secretary, 015. 3. 11 BIS.

26) McKittrick Collection, Brief McKittrick an George Harrison, 20. 9. 1940.

界が置かれないのである。

## II ライヒスバンクにとってのスイスにおける金回転表

金は BIS にとってそもそも1930年における設立の時期以来重要な役割を担っていた。BIS 設立の父たちはこの銀行に金本位制の番人たる役割を割り当てていたのであった。第一次世界大戦前までは国際金本位制は世界的規模で通用力を持っていたが、1914年にこれは崩壊した。1924年から1928年の間金本位制は世界のほとんどすべての国々でふたたび導入され、諸中央銀行総裁たちは、これをもって1914年から1924年までの戦争とハイパー・インフレーションの時期の貨幣危機は決定的に克服されたと信じた。この幻想は1931年9月イングランド銀行がその金兌換義務を廃止しなければならなくなった時はじけてしまった。イングランド銀行は大恐慌の中で劇的に増大する外国からのポンド資産の金への転換要求をもはや満たすことができなかつたのである。1933年のはじめにはアメリカ合衆国も金兌換義務を停止した。その中で BIS は危機に陥った金本位制を継続して擁護した。主任エコノミストのベル・ヤコブソンがその理論的裏付けを提供するとともに、BIS 銀行部門はある程度までは金本位制の実践的な擁護のために既に述べた諸中央銀行のための金決済制度を構築したのである。

1939年の8月から12月の間に BIS の金決済業務は著しく規模を縮小した。というのはヨーロッパの多数の小国の中央銀行がそのヨーロッパの BIS 金保管庫をニューヨークに移し、さらに大部分の金を彼らの名義でニューヨーク連邦準備銀行に保管したからである。1939年8月1日から9月30日までの間に BIS における諸中央銀行金保管高は全部で28トン（価値にして1億4,000万スイスフラン）から13トン（価値にして6,600万スイスフラン）にまで半減した。最も激しかったのがイングランド銀行にある BIS 金保管庫であって、それは11トン（ほぼ5,500万スイスフラン）から2トン（1,000万スイスフラン）へ縮小した。ニューヨークではこの間300万スイスフランから800万スイスフランへ

すなわちほぼ1.6トンへと増大した。ベルンでは BIS は1939年9月30日でほぼ2.5トン(価値にして1,300万スイスフラン)の流出の後なおほぼ9トン(価値にして4,400万スイスフラン)を維持した<sup>27)</sup>。これらの大規模な金の海外への移動についてはもはや BIS 金決済制度は純粋の振り替えでは実行できなかった。これらの金の大部分は物理的にニューヨークへ運ばれたのである。

1939年の第4四半期にもヨーロッパの BIS 諸中央銀行保管庫からのニューヨークへの流出は続いた。ベルンからはスウェーデン中央銀行が5トンを、ポーランド銀行が6トンを移動させ、ハンガリー、ノルウェー、オランダ、ルーマニア、ユーゴスラビア、フィンランド、およびトルコもいくらかを移動させた。パリとロンドンからの輸送を含めて BIS は1939年8月から1940年5月までに全部でほぼ36トンの金をニューヨークへ輸送したことになる<sup>28)</sup>。

この大規模流出のあと BIS は1940年1月にベルンでなお15の中央銀行向けの保管庫を導入したが、しかしそれはいくらかのわずかなキログラムの最小限金残高にまで沈んでしまった。帳簿における最低はドイツ・ライヒスバンクの純金3.1キログラムであった。ただイタリア銀行の金残高だけがちょうど1トンをもって例外をなした。

BIS のそれ自身の保管庫の残高は500キログラムであり、また増加しつつあった。ライヒスバンクは戦争勃発直後からかれらの BIS への利子支払いをスイスフランではなく対応する金の供給を通じてまかなうことを始めた。この支払方法の変化はパウル・ヘヒラーを不安にさせ、かれは1940年3月のベルリン訪問の際このテーマをテーブルに出している。「この金のスイスへの移転はある種の困難に導かないか？」とかれはライヒスバンク総裁フンクに訴えた。「ドイツの外国為替状態を考慮してわれわれは不便を当面我慢することにしよ

27) Zentrales Staatsarchiv Potsdam, Bestand: Dt. Reichsbank, Nr. 6741, Blatt 264 und 274, Gold-depots fuer Rechnung von Zentralbanken, die in den monatlichen Ausweisen der BIZ nicht enthalten sind, Aufstellung fuer Reichsbankpraesident Walter Funk, Berlin, in Trepp.

28) McKittrick Collection, Operations sur or de la BRI pendant la guerre, von Walter Thiersch vom 30. 4. 1946.

う。』<sup>29)</sup>

ドイツの外貨状況は1933年以来悪名高く悪かった。そこでナチ政権の経済的外交政策はよく知られているようになるべく外国為替を使わない二国間の清算協定を原則にしていた。それにたいして1938年以降ライヒスバンクはオーストリアの金準備の「継承」とチェコスロバキアの金準備の「略奪」等によって次第に金準備を増やしつづつあったのである。

1940年1月14日にライヒスバンクから BIS のベルンにある保管庫への金供給が始まった。6月5日までにライヒスバンクは新しく開設したナンバー11の小保管庫に6回にわたる輸送で1.8トンの金を送り込んだ。3回の移送はベルリンから直接、あとの3回はライヒスバンクが1940年5月にベルンのスイス国立銀行に開設した自身の金保管庫からの移転であった<sup>30)</sup>。

スイス国立銀行の外国金保管庫の資産目録から見られるところでは、1940年6月7日に BIS のライヒスバンク小保管庫ナンバー11からバーゼルにあるスイス・ユニオン銀行 (UBS) のユーゴスラヴィア国立銀行の保管庫へ1トンの金が流れ込んでいる。残余の799キログラムの金も1940年10月1日に金輸送会社のゴンドラント兄弟社に渡されリスボンへ冒険的な旅を行なって輸送された。そこから今度はニューヨークへ移送され最終的にはニューヨーク連邦準備銀行のポルトガル銀行の保管庫に移された。これをもって BIS のベルンにおけるナンバー11小保管庫はふたたびからになり、解消された<sup>31)</sup>。このユーゴスラヴィアとポルトガルへの金譲渡をもってライヒスバンクははじめて BIS の金回転台としてのサービスをユーゴスラヴィアとポルトガルへの支払いのために使い始めた。

ライヒスバンクの BIS 金保管庫を経由したユーゴスラヴィア国立銀行のスイス・ユニオン銀行にある保管庫への金供給はなお1941年3月3日まで続けら

29) McKittrick Collection, Aktennotiz des Paul Hechler Aufenthaltes in Berlin vom 15. bis 20. Maerz 1940.

30) Nationalbankarchiv Bern, Archivnummer 2007, Fremde Golddepots BIZ, in Trepp.

31) Nationalbankarchiv Bern, Archivnummer 2007, Fremde Golddepots BIZ, in Trepp.

表1 ライヒスバンクからユーゴスラヴィア鉄道局への金による支払い  
(1940年6月—1941年3月)

Date of Transaction	Fine weight (in kgs.)
1940	
3.06.40	545.4631
4.07.40	379.1446
30.08.40	502.30774
3.09.40	619.92357
19.09.40	88.31645
3.10.40	649.01403
18.10.40	3.37032
4.11.40	18.80609
18.11.40	335.02939
3.12.40	128.19294
19.12.40	14.48459
total 1940:	3,284.05282
1941	
3.01.41	727.05063
20.01.41	28.84875
3.02.41	216.85303
17.02.41	266.28448
3.03.41	131.74792
18.03.41	0.99894
total 1941:	1,371.78375
overall total:	4,655.83657

出所: Bank for International Settlements: Note on gold shipments and gold exchanges organised by the Bank for International Settlements, 1st June 1938 - 31st May 1945, Basle 9th September 1997.

れそこで突然中断した(表1)。全部でライヒスバンクは BIS 経由で4.6トンの金(価値にして2,300万スイスフラン)をユーゴスラヴィアに供給した<sup>32)</sup>。

32) McKittrick Collection, Zusammenstellung über die Verwendung des der BIZ auftrags der Reichsbank von der Schweizerrischen Nationalbank übertragenen Goldes, von Walter Thiersch vom 23. 10. 45.

一ヶ月後ドイツ国防軍がバルカン諸国に侵攻し、第三帝国はその輸入を今度は金ではなく、そもそも支払った場合のことであるが、信用状によって支払うことになる。

ユーゴスラヴィアの後には同じくバルカン国のブルガリアが1941年10月に1トンの金を受け取った。ベルンの BIS のライヒスバンク保管庫から出て二回の輸送によってソフィアに送られた<sup>33)</sup>。

ライヒスバンクの金のスイスにおける BIS 金回転台を經由した最大の受け取り手は1941年から1942年にかけてはポルトガル銀行であった(表2, 表3)。ポルトガルはスペインと同じく彼らに対し連合国の経済封鎖が許していた寛容な特別規制によって利益を得ていた。この特別扱いは、連合国側としてはこのファシスト独裁政権のイベリア半島の両国が枢軸諸国と結合することが妨げられねばならなかったからである。両国はしかし南アメリカ諸国から軍需物資を輸入し、これらはまずスイスに、そこを経てドイツおよびイタリアに再輸出されていた。それに加えて1941年末まではブエノスアイレスからリオデジャネイロを経てカップ・ヴェルデン、セヴィリアを通りローマにいたるイタリア航空の定期便が存在していた。主要な積み荷は、工業用ダイヤモンド、タングステン、プラチナなどであった<sup>34)</sup>。ドイツのベルンにおけるポルトガル銀行への金譲渡は輸入品の支払いかあるいはドイツ人が南アメリカで支払うためのポルトガル通貨エスクードの購入のためかいずれかに役立った。スペインの場合はドイツの金供給は単にわずかな部分だけがスイス経由で行われた。なぜならドイツ人はフランスの占領地区でスペインとの間に共通境界を持っていたので金はスイスへの回り道を通らなくても直接ベルリンからマドリッドに届いたからである。

ライヒスバンクとの利益の上がるエスクード・ビジネスは金融拠点スイスに

33) McKittrick Collection, Operations sur or de la BRI pendant la guerre, von Walter Thiersch vom. 30. 4. 1946.

34) Brown, Brendan, *The Flight of International Capital*, London, 1987, p. 182.

において BIS とスイス国立銀行それにスイス民間諸大銀行との完全な共生関係をなしていた。ただ三者すべての協働活動のみが金回転台を回すことができたのである。スイス国立銀行総裁のエルンスト・ヴェーバーの発言の中ではエスクード業務は次のように展開される。「エスクードは(ポルトガル銀行から)金の譲渡証とひきかえに与えられる。これはベルンのスイス国立銀行がリスボンへの輸送の目的で委託されて用意しておくものだ。またスイスの商業銀行を通じてライヒスバンクは多額のエスクードを調達している。その際はライヒスバンクは金を以って支払う。これを商業銀行は民間の貯蔵者に販売する。その際獲得されたスイスフランはポルトガル銀行がスイス国立銀行で金を買う時に使われる。ポルトガル銀行によってこうして獲得された金はスイス国立銀行によってリスボンに輸送されてはならない。」<sup>35)</sup>

BIS は戦争以来何トンもの金をフランスおよびスペイン経由でリスボンに、そしてさらにはニューヨークに輸送していた(表3)。その際積み上げられた経験と関連する諸中央銀行への直結ケーブルのおかげで、BIS は1940年夏にはリスボンへの金輸送の効率的組織化のために必要なあらゆる手段を持っていた。さらに BIS はそのノウハウを独占してはいなかった。かれらはスイス国立銀行にフランスの崩壊後リスボンへの金輸送の正確なルート、必要なトランジット書類および輸送費用を教えた<sup>36)</sup>。スイス国立銀行の側からは1940年11月に輸送業者のゴンドラント兄弟社の3人のスイス人運転手トリオのためのスペインの通貨ヴィザの調達の際の協力を通じて必要な助言にたいしてお返しをした。

ドイツ人が1940年から41年の冬にバルカンにおいてまたソヴィエト連邦に対する軍事行動を準備するために一層多くの物資をポルトガルから購入していた時、かれらのエスクード需要もまた急速に増大した。1941年はじめドイツ公使

35) McKittrick Collection, Memo McKittrick about Conversation with Ernst Weber, 8. 9. 1941.

36) Archiv Schweizerische Nationalbank Bern, Archivschachtel 112, Brief BIZ an Nationalbank vom 24. 7. 1940, in Trepp.



表2 第二次世界大戦におけるライヒスバンクの国際決済銀行への  
受け入れ金の最終的受取り機関 (1998年9月国際決済銀行調べ)

Date Gold came into BIS	Date Gold went out from BIS	Number of gold bars	Year marked on bars	Total fine weight (in kgs.)	Destination
1940					
14.02.40	sold on 10.02.1941	8	-	99.99598	NB of Portugal
13.03.40	sold on 10.02.1941	16	-	200.35846	NB of Portugal
8.05.40	sold on 10.02.1941	26	-	324.74215	NB of Portugal
	delivered on 7.06.1940	2	-	24.91349	NB of Yugoslavia
	delivered on 1.10.1940	1	-	12.49836	NB of Yugoslavia
31.05.40	delivered on 7.06.1940	29	-	361.60955	NB of Yugoslavia
3.06.40	delivered on 7.06.1940	13	-	153.11862	NB of Yugoslavia
5.06.40	delivered on 1.10.1940	9	-	102.22300	NB of Yugoslavia
11.06.40	delivered on 1.10.1940	9	-	105.90315	NB of Yugoslavia
21.06.40	delivered on 1.10.1940	9	-	104.82178	NB of Yugoslavia
2.07.40	delivered on 1.10.1940	22	-	256.89348	NB of Yugoslavia
28.08.40	delivered on 20.09.1940	42	-	522.52684	NB of Yugoslavia
3.09.40	delivered on 20.09.1940	39	-	483.73167	NB of Yugoslavia
	delivered on 9.04.1941	1	-	12.12422	Swiss National Bank
	sold on 10.02.1941	11	-	136.66992	NB of Portugal
17.09.40	sold on 10.02.1941	3	-	37.50526	NB of Portugal
	delivered on 15.01.1941	1	-	12.55522	NB of Yugoslavia
	delivered on 9.04.1941	4	-	51.02869	Swiss National Bank
3.10.40	delivered on 15.01.1941	15	-	186.73926	NB of Yugoslavia
	delivered on 27.01.1941	18	-	224.00635	NB of Yugoslavia
	delivered on 29.01.1941	19	-	237.06044	NB of Yugoslavia
18.11.40	delivered on 29.01.1941	6	-	74.94151	NB of Yugoslavia
	delivered on 8.04.1941	15	-	187.06717	NB of Yugoslavia
	delivered on 29.04.1941	7	-	87.67028	NB of Yugoslavia
3.12.40	delivered on 9.04.1941	11	-	133.68221	Swiss National Bank
1941					
26.02.41	delivered on 9.04.1941	40	-	502.55386	Swiss National Bank
29.10.41	sold on 13.01.1942	36	-	444.84091	NB of Bulgaria
	sold on 17.06.1942	2	-	24.26625	NB of Bulgaria
	sold on 4.03.1943	3	-	36.54115	NB of Bulgaria
24.11.41	debited on 25.08.1942	26	-	299.31073	NB of Rumania
1942					
12.01.42	sold on 13.01.1942	51	-	600.46252	NB of Bulgaria
19.01.42	debited on 25.08.1942	41	-	499.22946	NB of Rumania

Date Gold came into BIS	Date Gold went out from BIS	Number of gold bars	Year marked on bars	Total fine weight (in kgs.)	Destination
1943					
13.01.43	sold on 4.03.1943	1	1932	12.44376	NB of Bulgaria
	debited on 22.03.1944	7	1932	89.23706	NB of Rumania
25.01.43	debited on 22.03.1944	42	—	501.26170	NB of Rumania
9.03.43	debited on 22.03.1944	42	1942	499.96467	NB of Rumaia
26.05.43	debited on 22.03.1944	17	1942	200.01858	NB of Rumaia
28.06.43	debited on 22.03.1944	17	1942	200.86829	NB of Rumaia
2.08.43	debited on 22.03.1944	16	1937	200.40179	NB of Rumaia
28.08.43	debited on 22.03.1944	16	1938	201.35418	NB of Rumaia
1.10.43	earmarked on 17.01.1947	16	1938	200.86941	NB of Rumaia
27.10.43	earmarked on 17.01.1947	16	1938	199.98718	NB of Rumaia
3.12.43	debited on 22.03.1944	16	—	201.38051	NB of Rumaia
30.12.43	debited on 22.03.1944	16	1939/1934	199.30678	NB of Rumaia
1944					
21.01.44	debited on 22.03.1944	16	1934	200.05514	NB of Rumania
25.02.44	earmarked on 17.01.1947	16	1935	200.21623	NB of Rumania
22.03.44	delivered on 24.06.1948	17	1936	205.19445	Tripartite Gold Comm.
22.04.44	delivered on 24.06.1948	17	1935	199.26853	Tripartite Gold Comm.
15.05.44	delivered on 24.06.1948	17	1935	200.07709	Tripartite Gold Comm.
1.06.44	delivered on 24.06.1948	17	1935	199.75432	Tripartite Gold Comm.
23.06.44	delivered on 24.06.1948	17	1935	203.85329	Tripartite Gold Comm.
10.08.44	delivered on 24.06.1948	13	1935	152.50887	Tripartite Gold Comm.
12.10.44	delivered on 24.06.1948	17	1935/1937	203.55377	Tripartite Gold Comm.
6.11.44	delivered on 24.06.1948	16	1937	198.91580	Tripartite Gold Comm.
12.12.44	delivered on 24.06.1948	17	1937	201.95198	Tripartite Gold Comm.
22.12.44	delivered on 24.06.1948	50	1937	602.56330	Tripartite Gold Comm.
Total gold deposited in Berne :		987		12,016.59862	
1945					
12.04.45	delivered on 24.06.1948	34	—	417.98290	Tripartite Gold Comm.
12.04.45	sold on 13.09.1948	70,000 coins		500.17147	sold on private market,
	sold on 30.09.1948	85,000 coins		607.46593	exchanged ag. bars by Banque de France
Total gold deposited in Konstanz :				1,525.62030	
Overall total :				13,542.21892	

—=no information available

出所 : Bank for International Settlements : Note on gold shipments and gold exchanges organised by the Bank for International Settlements, 1st June 1938 - 31st May 1945, Basle 9th September 1997.

表3 国際決済銀行の組織した金現送の年代順リスト (1940年7月1日—1945年5月31日)

Date (transport left)	From	To	Means of transport	For the account of	Number of bars	Fine weight (kg.)
1940						
27.11.40	Berne	Lisbon		BIS	64	799.27177
27.12.40	Lisbon	New York	ss Exeter	BIS	40	499.93775
1941						
9.01.41	Zurich	Berne		BIS	58	703.85810
31.01.41	Lisbon	New York	ss Excalibur	BIS	24	299.33402
11.10.41	Berne	Lisbon		BdPortugal	29	363.53356
7.11.41	Berne	Lisbon		BdPortugal	43	544.57871
13.11.41	Chamalières	Berne		BIS	23	288.12250
21.11.41	Berne	Lisbon		BdPortugal	57	725.19802
3.12.41	Berne	Lisbon		BdPortugal	72	902.56825
12.12.41	Berne	Lisbon		BdPortugal	72	898.75686
1942						
12.03.42	Berne	Sofia	by rail	NB Bulgaria	43	527.18183
25.03.42	Berne	Sofia	by rail	NB Bulgaria	44	518.12160
13.04.42	Berne	Sofia		BC Sofia	57	692.73582
23.06.42	Berne	Sofia		NB Bulgaria	4	48.19316
29.10.42	Berne	Lisbon		BIS	48	599.24742
1943						
25.02.43	Berne	Lisbon		BIS	20	241.85302
10.03.43	Berne	Geneva		BC Sofia	4	48.98491
1944						
20.04.44	Chiasso	Berne		BIS	1,068	12,604.70634
Total turnover July 1940 — May 1945 =					1,770	21,306.18364

出所: Bank for International Settlements: Note on gold shipments and gold exchanges organised by the Bank for International Settlements, 1st June 1938 - 31st May 1945, Basle 9th September 1997.

のクレディチャーが持ちあがってきている問題の相談のためにスイス国立銀行と BIS の首脳をベルンのドイツ大使館での夕食に招待した。その際はマッキトリックとパウル・ヘヒラーのほかにはスイス国立銀行総裁のエルンスト・ヴェーバーおよび同理事のパウル・ロジーそれに元のスイス大統領のゴットフリート・バッハマンも同席した<sup>37)</sup>。ポルトガル銀行はきわめて厄介な肥大化したポルトガルの金保管庫のベルンからリスボンへの輸送を BIS に委託した。それにたいして BIS の契約輸送業者のゴンドランド兄弟社は1941年10月はじめに0.4トンの試験的な急行便を組織してみた。スイス国立銀行理事のフリッツ・シュノルフへの手紙の中で BIS のパウル・ヘヒラーとロジェ・オブワンはこの試みの成功した経過について述べている。「スイス国境からスペイン国境のカンフランクまで輸送は3日かかり、そこからスペイン民兵の警護のもとでなお一日半をバダヨツまで、ここからなおリスボンまで一日かかる。全部でリスボンまで7日間である。コストは保険と二人の武装した人間による監視を含めて発送物の価値の1000分の85である。あなたが同様にリスボンへの金輸送を行なう意図があるなら、これをわれわれの発送といっしょに行なうことがたぶん目的に適っている。」<sup>38)</sup>

成功した試験的な急行便の後 BIS のリスボンへの金輸送が間断なしに続いた。1941年10月24日には0.9トンが、11月7日には1.8トンが、12月3日には4.4トンが、12月12日にはまた4.4トンが、そして1942年1月5日には3度続いて4.4トンが運ばれた。トータルでゴンドランド兄弟社はこの2ヶ月間でほぼ20トンの金(価値にして1億スイスフラン)をリスボンに運んだ。これは今日の価値で言うところと10億から15億スイスフランに相当するものと評価される。それぞれ4.4トンずつの三回の輸送はそのつどリスボンへの輸送のためのゴンドランド社への供給のわずか数日前にスイス国立銀行にある BIS 金保管庫で記帳

37) Schweizerisches Bundesarchiv, Signatur 2001(D)2 Band 198, Notiz von Robert Kohli fuer Marcel Pilet-Golaz, in Trepp.

38) Schweizerische Nationalbank, Archiv Bern, BIZ: Archivnummer 3046, BIZ-Brief an Nationalbank, in Trepp.

された<sup>39)</sup>。

### ロンドンからの警告

この、BIS が役割を果たした、ベルリンからベルンへ、そこからリスボンへのあらゆる金輸送は、連合国に隠されていたのでは決してない。1942年1月8日になってマッキトリックはロンドンのイングランド銀行総裁ノーマンからひとつの警告を受け取った。「私が聞いたところによれば、BIS はスイスからリスボンへの金輸送を組織したということだ。私はあなたに、われわれの政府がこの金の運動を最大限の不信感を持って見ていることを警告する。」<sup>40)</sup>

マッキトリックは折り返し返事を出した。「ご警告大変有り難う。われわれは1941年10月1日から12月18日まで5回リスボンへの全部で3.3トンの輸送を組織した。2回の輸送ではわれわれはただポルトガル銀行のための輸送者として機能しただけだ。」<sup>41)</sup> 20トンと言う代わりに——この数はスイス国立銀行にあるBISの金保管庫の在庫リストによって調査できる——<sup>42)</sup>、マッキトリックはただ3.3トンだけと言っている。

マッキトリックはスイスにおけるライヒスバンクのエスクード業務の経済的動機は当然のことながらよく分かっていた。20年後、1964年にも、すでに引用したプリンストン大学のオーラル・ヒストリー・インタビューで彼はこれについて回想している。「私は、ドイツ人が彼らの南アメリカにおける活動のために必要な外国為替を資金供給していることを知っていた。ライヒスバンク、スイス国立銀行およびポルトガル銀行は、ドイツ人に南アメリカで支払うことが出きるエスクードを供給するアレンジメントをしていたのだ。ベルンのスイス国立銀行の保管庫への金供給と引き換えに、ポルトガル銀行はエスクードをライヒスバンクによって指定された受け取り手に支払ったのだ。その際技術的な

39) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll 1. Halbjahr 1942, S. 172, in Trepp.

40) McKittrick Collection, Telegramm Norman an McKittrick, 8. 1. 1942.

41) McKittrick Collection, Brief McKittrick an Norman, 21. 1. 1942.

42) Trepp, a. a. O., S. 63.

処理のある段階はスイス民間3大銀行に委ねられた。われわれ BIS からである。というのはドイツ人は金をわれわれに供給していたからだ。」<sup>43)</sup>

スイス国立銀行もまた連合国から警告されていた。ワシントンのアメリカ合衆国財務省はスイス国立銀行の在米代表のヴィクター・ガウティーアを呼び出し、合衆国財務省はこの輸送の中止を求めていることを知らせた。「ナチスがスイス諸銀行と BIS からエスクードを供給されている」ということが出発点であった。スイス国立銀行はこの威嚇を気楽に考える余裕はなかった。アメリカ合衆国にある凍結されるかもしれないスイスの全資産はほぼ50億ドルであり、ドイツにあるスイス資産よりずっと多かった。1942年3月11日スイス国立銀行総裁エルンスト・ヴェーバーは BIS 総裁マッキトリックに最終的に、スイス国立銀行はエスクード取引をスイス自身の必要のためだけになお許可すると伝えた<sup>44)</sup>。そのすぐ後ポルトガル銀行は1941年11月24日に開設したかれらの BIS 特別保管庫“A”をふたたび解消した。

#### 鑄造活動

ライヒスバンクの他の諸中央銀行に対する金譲渡の技術的処理と並んで BIS はまたいくつかの金貨から金の延べ棒への鑄造活動においても手助けした。1940年12月から1941年の9月までデンマーク国立銀行は BIS にほぼ8トンの金貨を保管していた。そのうちから少なくとも1トンがスイスにおいて、ベルンのスイス同盟鑄造所かあるいはスイス・ユニオン銀行のル・ロクルにある金精練所のいずれかで延べ棒に鑄造され、そしてベルンのユーゴスラヴィア国立銀行金保管庫に供給された<sup>45)</sup>。デンマークは当時ドイツ国防軍によって占領されており、コペンハーゲンのデンマーク国立銀行にはライヒスバンクの管

43) Oral History Interview McKittrick, *op. cit.*, p. 42.

44) McKittrick Collection, Memo McKittrick on Conversation with Ernst Weber about Escudo Operation, 11. 3. 1942.

45) McKittrick Collection, Operations sur or de la BRI pendant la guerre, von Walter Thiersch, 30. 4. 1946.

理官が銀行業務を監視していた。1940年10月 BIS はライヒスバンクのための大きな鑄造活動を組織した。ほぼ1トンのフランス・ナポレオン金貨が、スイス・ユニオン銀行のル・ロクル支店が BIS のライヒスバンク保管庫に供給した22個の箱（24番から45番まで）に詰められて、スイス同盟鑄造所で延べ棒に鑄造され、そのご輸送業者ケリー&エーラーによってブタペストまで運ばれた<sup>46)</sup>。この金貨がどこに由来するか、ドイツの戦前からの所有であるか、それともフランスの地方銀行の民間銀行金庫からドイツ国防軍と SS が略奪したものに由来するかははっきりしない<sup>47)</sup>。もうひとつのより大きなハンガリーの金の延べ棒の鑄造のことが1943年5月5日のスイス国立銀行の「外部金保管庫、BIS」の在庫リストに出ている。当時スイス同盟鑄造所は BIS 保管庫の172の金の延べ棒からブタペストの中央貨幣機関のために172の新たな、重さ総計はほぼ2トンの延べ棒を鑄造し、スイスの検査マークをもって与えた<sup>48)</sup>。中央貨幣機関は、ハンガリー国立銀行の半官半民の付属施設であり、1940年11月に4トンの保管を以って彼ら自身の BIS 保管庫を開設した<sup>49)</sup>。それ以来この保管庫は金の活発な流入を示すことになった。1941年7月19日には輸送会社ケリー&エーラーは BIS の委託でほぼ6トンの金をベルンからブタペストのハンガリー国立銀行に運んだ<sup>50)</sup>。1944年5月4日にスイス同盟鑄造所は BIS からの最後の小さな鑄造委託を受けた。8つの金の延べ棒が BIS 保管庫7番から鑄造された<sup>51)</sup>。

46) Archiv Schweizerische Nationalbank Bern, Fremde Golddeposits BIZ, Archivnummer 2007, in Trepp.

47) G. Trepp, a. a. O.

48) Schweizerische Nationalbank, Archiv Bern, Fremde Golddeposits BIZ, Archivnummer 2007, in Trepp.

49) McKittrick Collection, Operations sur or de la BRI pendant la guerre, von Walter Thiersch, 30. 4. 1946.

50) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll I. Halbjahr 1942, S. 172, in Trepp.

51) Schweizerische Nationalbank, Archiv Bern, Fremde Golddeposits BIZ, Archivnummer 2007, in Trepp.

## III スイスの「国益」

BIS とスイス国立銀行との関係は1939年5月に副総裁パウル・ロジエを BIS 監査役会メンバーとして受け入れることを BIS が拒否して以来、冷淡なままにとどまっていた。同事件は、スイス国立銀行総裁エルンスト・ヴェーバーが自身の意志に反して連邦協議会と銀行理事会の希望に応じて BIS 監査役会に席をもつという結果に落ち着いていた。こうしたエルンスト・ヴェーバーの BIS に対する反感もしかしながら両機関が戦争勃発直後から金業務においてますます緊密に協力し合うことを妨げるものではなかった。既に述べたように BIS はバーゼルにおいて金保管所を持っていなかった。彼らの金業務はスイス国立銀行の金保管所を通じてベルンにおける連邦地区のもとでおこなわれており、いくつかの場合にはチューリッヒにあるそれを通じて行なわれていた。当然のことながらこのよきサービスは無料ではなかった。スイス国立銀行は BIS から以下のような計算で手数料を取った。金の受け入れは価値千分率の0.03、保管庫での移転は同0.015、送り出す時は同0.9である。この料金比率はニューヨーク連邦準備銀行のそれよりも高かった。ニューヨーク連銀では金受け入れが価値千分率0.024、保管庫内移転が同0.011であった<sup>59)</sup>。手数料はすぐさま貨幣収入となる。スイスフランで言うと BIS は8月から12月の間のニューヨークへ輸送したほぼ10トンの金だけで60万スイスフランを支払い、1941年終わりのポルトガルへ輸送された20トンにたいして120万スイスフランを支払っている。

海外への金現送の技術的問題については BIS は彼らの金決済に関する長年の経験のおかげでスイス国立銀行よりも大きな知識を持っていた。彼らはこの知識を独占しはしなかった。1940年2月 BIS はスイス国立銀行に対しベルンにおけるスイスの金のニューヨークにおける金にたいする交換にあたってサービスを提供した。これは支払額に対する手数料価値千分率2.25で

59) Schweizerische Nationalbank, Archiv Bern, Archivnummer 3046 BIZ, in Trepp.



あった<sup>53)</sup>。1940年5月はじめに両機関はより大きなスイス国立銀行のロンドンへの金輸送を計画した<sup>54)</sup>。ライヒスバンクが1940年5月にかねらの BIS 内保管庫に追加してスイス国立銀行に自身の金保管庫を開設した後、こちらの方の取引はすぐに BIS における出し入れを凌駕するようになったが、スイス国立銀行はこの BIS の知識の優位に短期間で追いついた。

金業務における接近にもかかわらず BIS 経営陣とスイス国立銀行幹部たちのまづくなった関係は1940年のうちには改善されなかった。すでにのべた、スイス国立銀行も参加した BIS とユーゴスラヴィアとの業務の盛り上がりはスイス国立銀行の内部での強い批判に導いた。1941年1月30日のスイス国立銀行幹部会会議の議事録は伝えている。「BIS がスイス民間諸銀行とともに行なう様々な金業務がわれわれの注意を引く。」と「そして幹部会は次のような見解で一致している。すなわち、こうした BIS のスイス諸銀行との業務は基本的に望ましくないと考えねばならない。」<sup>55)</sup> ユーゴスラヴィア業務においてはドイツ人とユーゴスラヴィア中央銀行だけでなくひとつのスイス大銀行も参加しているのだから、スイス国立銀行は BIS 定款の第23条に従って拒否権を持っていた。すなわち、第23条は言う。「BIS が諸中央銀行との間で許されている業務は、関係する国の中央銀行が異議を申し立てないという前提の上で、あらゆる国の銀行、銀行業者、会社ないし私人との間でも行なわれてよい。」<sup>56)</sup> ユーゴスラヴィアにたいするドイツの金譲渡がスイス国立銀行によるその差し止めの後まもなくドイツ国防軍のバルカンへの攻撃とともにとまった後で、問題は自ずから片付いた。もちろんスイス国立銀行幹部はひとつの教訓を学んだ。「第23条による中央銀行の拒否権は、これを後からよしとするのでは、意味を持つ

53) Schweizerische Nationalbank, Archiv Bern, Archivnummer 2007, Fremde Golddeposits, BIZ, Brief der BIZ an die Nationalbank, in Trepp.

54) Schweizerische Nationalbank, Archiv Bern, Archivschachtel Nr112, in Trepp.

55) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll 1. Halbjahr 1941, 30. Januar 1941, S. 94, in Trepp.

56) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll, 1. Halbjahr 1941, 30. Januar 1941, S. 94, in Trepp.

ことができない。承認は前もって求められるのでなければならない。<sup>57)</sup>

スイス国立銀行の BIS 金業務に対する批判は、じっさい対外的な政策に動機づけられているのではなくして、スイスの国内政策に動機づけられたものであった。すなわち、可能な限り多くの金を蓄積するためにスイス国立銀行はその外国への流出を妨げようとしたのである。貴金属は輸入の支払いのために用立てられるべきである。こうした目的をスイス国立銀行は国家の自由な金市場への介入なしに実現しようと思った。難しい試みであった。なぜならフランスおよびイベリア半島からの金需要は大きくまたスイスの自由金市場での価格は常に上昇傾向にあったからである。スイス国立銀行は、スイス諸銀行に金を常に4,970スイスフランの戦前の一キロ価格で販売し続け、また名目価格で諸銀行に引き渡す20スイスフランの新しい金貨を鑄造する一方で、民間は「ヴレネリ金貨」にたいして30スイスフラン以上またキロ延べ棒に対して5,700スイスフランまで支払った。このことから、民間銀行はスイス国立銀行で安い金を買いこれをずっと高い価格で民間の蓄蔵者に再販売することで巨額の利益を上げることができることになった。スイス国立銀行の見解によれば BIS の業務も最終的にはスイスからの金流出につながることになるのだった。これが事実として適切であるかどうかはもちろん疑わしい。なぜならベルンにおける BIS の金在庫は1940年の1月から1941年の7月まで2.5トンから5.3トンに増加していたからであった<sup>58)</sup>。

1942年の初頭の大規模なポルトガル業務の最中にスイス国立銀行の BIS との金業務における紛争は重要な局面を迎えた。きっかけをもたらしたのはスウェーデン中央銀行のイヴァール・ルート Ivar Rooth であった。かれはスウェーデンのスイスにおける金取引のために BIS を利用しようとした。これまではスイス国立銀行とスイス諸大銀行を使っていたにもかかわらずである。

57) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll, 1. Halbjahr 1941, 30. Januar 1941, S. 94, in Trepp.

58) McKittrick Collection, BIS Banking Department, Monthly Banking Statements for Mr. McKittrick, January 1940 and July 1941.

スウェーデンはかれらのドイツ第三帝国に対する大規模な戦略物資供給の一部をスイスにおける金供給を以て支払わせていたのでイヴァール・ルートはスイスにおいてやるべきことがたくさんあった。「わたしはあらゆる手段でスイス国立銀行からこの許可を手に入れようと試みた。そしてはっきりした否の返答を得た。我がチューリッヒの大銀行の友人もまったく助けにならなかった。」当時イヴァール・ルートは BIS 総裁マッキトリックにこう言っている。このイヴァール・ルートの試みの後スイス国立銀行総裁エルンスト・ヴェーバーは BIS 総裁マッキトリックをチューリッヒまで呼び出しはっきりと語った。

「BIS は最近疑いもなくその課題にはないはずのスイスの通常銀行業務に手出しをしている。」<sup>59)</sup> さらにヴェーバーは、BIS は外国で不信感を刺激しており、これによってその損害を更に増すと警告した。これに対してはマッキトリックはヴェーバーを支持し、総支配人のパウル・ヘヒラーがすべての関連諸問題を詳細にスイス国立銀行と話し合うよう提案した<sup>60)</sup>。

両銀行総裁が取り決めた話し合いが結局1942年9月に実現するまでになお約半年が経過した。参加者がこの動機のスイスにとっての大きな意義を示している。BIS 側ではパウル・ヘヒラーとコンラッド・ティールシュが参加し、スイス国立銀行側ではエルンスト・ヴェーバー、パウル・ロジー、フリッツ・シュノルフおよびアルフレッド・ヒールス Alfred Hirs を含む全経営陣と元のスイス国立銀行総裁バハマン教授が参加した<sup>61)</sup>。スイス国立銀行の首脳たちは再度、かれらはスイスの金保有残高を国民的防衛上の利益関心から高めようと欲しており、そのために国内及び国外の蓄蔵者への金流出は阻止されねばならないと強調した。BIS の金業務においても金は再び外国に流出している。というのは BIS は単なる回転台であるからだ。加えて BIS はスイス国立銀行よりも高い金価格を支払い、もう少し低い購入価格による金取引を妨げている。

59) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll, 1. Halbjahr 1942, S. 173, in Trepp.

60) Ebenda, S. 219.

61) MC, Memo Hechler über Gespräch mit der SN, 11. 09. 1942.

BISの外国の中央銀行との取引を通じたスイスの金政策のこうした掘り崩しは望ましくない。スイス国立銀行の非難に対してパウル・ヘヒラーは次のように答えた。「BISはまさしく外国の発券(中央)銀行から現在、金の延べ棒及び金貨を買い入れること、またほかの発券銀行に再販売することあるいは金貨を金の延べ棒に交換することについて問合わせを受けているところだ。スイス国立銀行にもBISは繰り返し金を販売しており、例えば1941年5月28日にはブエノス・アイレスのアルゼンチン中央銀行で1.4トンの金延べ棒をまたベルンでは500キログラムの合衆国イーグル金貨をスイスフランに対して販売している」<sup>62)</sup>。ヘヒラーのマッキトリックへの覚え書きでは、彼はなお次のように付け加えている。「わたしは、提示された諸理由を度外視しても、われわれの金業務がスイス国立銀行の競争相手としてまたかれらの利益可能性を制限するものとして見なされているという印象を受けた。」<sup>63)</sup> 長期間のやり取りの後最終的に次のように取り決められた。「スイス国立銀行は次のことに同意する。BISが控えめな規模において外国の発券銀行との間で金業務を続けること、しかしその場合スイス国立銀行の金の購入価格、販売価格を拠り所にする。(中略)外国の発券銀行がスイスフランを必要とする場合、BISはこれをスイス国立銀行に対する直接の金延棒譲渡によって獲得するべきである。金貨製造業務からはBISはスイス国立銀行の希望にしたがって完全に撤退すべきである。」<sup>64)</sup>

ベルンにおけるスイス国立銀行の金準備が1942年の夏から秋にかけて急減した後にスイス連邦会議は1942年12月7日に最終的に金の取引及び輸出入の監視のための決定を發布した。これに裏付けられてスイス国立銀行はそれまで自由であった金市場を最高価格規定と輸出管理によって制約したのであった。この金市場の規制によってスイス国立銀行は金の更なる外国への流出を食い止める

62) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll, 1. Halbjahr 1941, S. 494, in Trepp.

63) MC, Memo Hechler an McKittrick über Gespräch mit der SN, 11. 9. 1942.

64) Schweizerische Nationalbank, Direktoriumsprotokoll 2. Halbjahr 1942, 9. 9. 1942, S. 806/807, in Trepp.

ことに成功したのである<sup>65)</sup>。言うまでもなくそれはスイスの「国益」に合致するものであった。

---

65) Brown, Brendan, *op. cit.*, p. 191.